

「二地域居住」釧路市が力

【釧路】釧路市は本年度、都市と地方に生活拠点を持つ「二地域居住」の促進に向けた取り組みを本格化させる。夏の涼しさや「花粉ゼロ」などを本州の人たちにアピールし、地域活性化につなげる狙い。市内の空き家の活用に向けた調査などを実施するほか、5月には東京でスタートアップ企業や大手企業と交流会を開く。

空き家活用向け調査

東京の企業と交流会

市は4月、市内で空き家や空き部屋を所有する個人・法人を対象に、二地域居住用への転用に関する意向調査を始めた。今後の物件確保に役立てる方針。同28日には民間企業を交えて会合を開き、地域課題解決によって自己実現を図りたい人々を取り込む重要性を共有した。

釧路市での長期滞在は、首都圏が主なターゲット。5月20日には東京で、スタートアップ起業や大手企業の新規事業担当者らと交流会を開催する。釧路との接点づくりやニーズの把握を狙う。市は4日以上過ごす人（ビジネス客除く）を長期滞在者として「笑える

「夏涼しい」「A」「首都圏にPR

くらい涼しいまち」などと銘打って誘致してきた。2024年度上半期（4～9月）の長期滞在者は過去最多の2256人で、北海道内自治体の体験移住事業は23年度まで13年連続1位だった。

滞在者の9割は6代以上が占め、夏場は宿泊施設が足りないなどの課題もある。市はスギやヒノキが自生していない釧路の春の魅力も知ってもらおうと、今年新たに「花粉ゼロ」をPRするポスターを600枚製作。観光地で気分転換しながらリモートで働くワーケーションなどをPRしてきた。

二地域居住促進はこうした取り組みを強化するもので、釧路市は3月、日高管内浦河町、胆振管内厚真町とともに、国の補助を受けて先導的な取り組みを進めることになった。

釧路市は、長期滞在者向けに、図書館の利用が可能になるほか、65歳以上が博物館や展望台の入館料が無料になるなどの特典カードを発行してきた。今後は住民票を移さず、繰り返し滞在する人が住民サービスを受けられる「第2住民」とする仕組みを検討するほか、マンズリーマンシジョン滞在施設への予約システム構築に向けた調査も進める。

市市民協働推進課は「事業者と協力しながら二地域居住を進めて、経済効果などを市民に還元したい」としている。

（田鍋里奈）



二地域居住の促進に向け、釧路市や民間事業者を交えて開かれた会合。どのような層を取り込むかなど課題を整理した

4月28日、釧路市



年 組 名前

道新でワークシート

- (1) 空欄Aにあてはまる言葉を記事の中から4字で探し、抜き出して答えなさい。
- (2) 釧路市が発行している「特典カード」にはどのような目的があると考えられますか。次の中から最も適切なものを1つ選びなさい。
- ア. 市民の買い物を促進するため
 - イ. 観光客に釧路の産業を知ってもらうため
 - ウ. 観光客を市民に変えるきっかけにするため
 - エ. 若者に本をたくさん読ませるため
- (3) 釧路市が二地域居住を進める主な目的として最も適切なものを、次の中から1つ選びなさい。
- ア. 空き家を使って地域の活性化を図るため
 - イ. 観光地の人気を高めるため
 - ウ. 市外に引っ越す人を減らすため
 - エ. 住宅を高く売るため
- (4) 次のDさんとEさんの会話文にある空欄①に、あなたの住む地域のアピールポイントを50字程度で書きなさい。

D：釧路市みたいに、わたしたちの地域でも二地域居住を受け入れたら、いろいろいいことがありそうだね。

E：うん。もしそうなったら、どんなところをアピールしたい？

D：うーん、たとえば（①）っていうのは、けっこう自慢できると思うな。

E：なるほど、それなら他の地域の人にも来てみたいって思ってもらえそうだね。